



水草のおはなし

- 野尻湖は本来、水草が豊富な湖
- 昭和50年前後 水草（コカナダモ）が著しく増加
→ 船の航行・漁業等に障害
- 昭和53年（1978年） **ソウギョ**放流（稚魚5000尾）
- 昭和56年（1981年） **水生植物が喪失**
- 昭和63年（1988年） 植物プランクトン（ウロコレナ）による**淡水赤潮**が発生

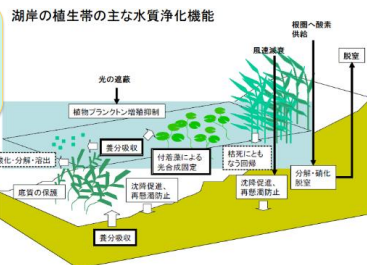


淡水赤潮が発生したのは、経済成長に伴う富栄養化の進行によるほか、**水草帯喪失による湖沼生態系の単純化が原因のひとつ**と考えられている。

- 平成6年（1994年） 湖沼法に基づく指定。

湖沼における水草の役割

- 汚濁物質の分解や栄養塩類（窒素、リン）の一時貯留、底質の巻き上げ抑制など
→ **水質浄化機能**



※右図は「遠条解説 湖沼水質保全特別措置法（平成19年9月 環境省）」より抜粋

- 小さな生物のすみかや産卵場所などとして利用される
→ **湖の中で、最も生態系が豊かな場所**

水草帯は、湖沼の水環境や生物多様性を保全する上で重要！

かつて野尻湖で観察された水草

野尻湖産水生植物 **24種** 中野治房 明治44年（1911年）調査
（野尻湖の研究（田中阿歌麿 著）より）

- **抽水植物 6種**
ヨシ、フトイ、サンカクイ、ヒメガマ、マコモ、ウキヤガラ
- **沈水植物 18種**
フラスコモ2種、ヒメミズニラ、センニンモ、ササエビモ、ミズヒキモ、ホソイトモ、リウノヒゲモ、ヒロハノエビモ、ヒルムシロ、ナガバエビモ、ホッソモ、イバラモ、ヒメホタルイ、クロモ、セキショウモ、キンギョモ、ホザキノフサモ

シャジクモ類 **8種** KASAKI.H 昭和39年（1964年）調査

- **シャジクモ科**
シャジクモ、ケナガシャジクモ、アメリカシャジクモ、**ホシツリモ**、ヒメフラスコモ、ナガホノフラスコモ、フタマタフラスコモ、キヌイトフラスコモ

野尻湖の水草復元に係る取組

取組の経過・概要

- ・「湖沼における水草帯の保全に関する研究（衛生公害研究所（現 環境保全研究所） 平成6年度）」
 - ・関係団体及び地域住民（野尻湖水草復元研究会[※]）との協働による検討・対策
- ※ 野尻湖水草復元研究会
- ・設立 平成8年
 - ・構成 環境保全研究所、野尻湖ナウマンソウ博物館、地元ダイバー・サーファー等のボランティアなど。大学、国立環境研究所も協力。
 - ・活動内容 ホシツリモ再生を主とする野尻湖での水草の復元に関する研究



野尻湖の水草観察の記録

平成25年度

- ・魚の侵入を防止する柵（実験区）の内側、またはソウギョが侵入できない程度の浅いところには水草の発生あり。
- ・その他の地点では水草は確認できなかった。



芙蓉荘横実験区 H25.11.6撮影
(魚の侵入を防止する柵あり)



古海用水流入口 H25.7.3撮影
(魚の侵入を防止する柵なし)

野尻湖の水草復元に係る取組

ソウギョ

東アジア原産。日本各地に放流されている。

- ・水草を旺盛に摂食する。
- ・ **野尻湖内では増殖しない。**

※ 卵の孵化のため流れの長い河川が必要。
日本の移植地での自然繁殖の確認は、利根川水系のみ。

| 年度 | ソウギョの捕獲数 |
|-------|----------|
| 平成26年 | 0 匹 |
| 平成27年 | 2 匹 |
| 平成28年 | 6 匹 |
| 平成29年 | 4 匹 |
| 平成30年 | 1 匹 |
| 令和元年 | 0 匹 |

野尻湖漁協によるソウギョ捕獲のお願い

- ・ 全長 1 m以上のソウギョを捕まえると、1匹10,000円に換金。（年間で上限10匹まで）
- ・ H28から取組開始。R3まで毎年継続して実施。

野尻湖の水草観察の記録

平成29年度、なんだか、様子が変わってきたのです…



古海用水流入口
29.7.11撮影
(魚の侵入を防止する柵なし)
アオミドロらしきものが育成



芙蓉荘付近で
H29.8.7撮影
(魚の侵入を防止する柵なし)
抽水植物が育成



芙蓉荘付近で
H29.9.5撮影
(魚の侵入を防止する柵の外側)
ヒルムシロ属が育成

いま、野尻湖の水草は...

現在、6つの地点でモニタリングを行っています。



5. 水穴

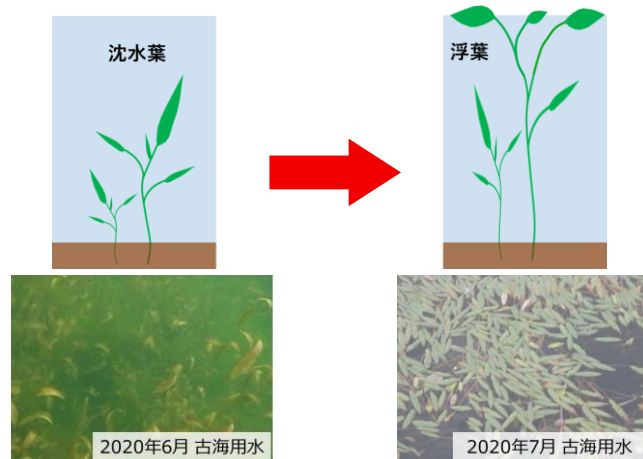


2020年7月



2020年8月

ヒルムシロ ※イメージ図



野尻湖の秘密とは

